

「学生が育つ」ゼミの作りかた

豊田 義博 (高知大学 客員教授)

講師略歴

1983年東京大学理学部卒業後、リクルートに入社。1999年リクルートワークス研究所発足とともにその一員となり、研究員として、20代の就業実態・キャリア観・仕事観、新卒採用・就活、大学時代の経験・学習などの調査研究に携わる。現在は、リクルートワークス研究所・特任研究員、ライフシフト・ジャパン株式会社・取締役CRO、一般社団法人産学協働人材育成コンソーシアム・理事などにかかわるパラレルワーカー。著書に『なぜ若手社員は「指示待ち」を選ぶのか?』(PHPビジネス新書)、『若手社員が育たない。』『就活エリートの迷走』(以上ちくま新書)、『「上司」不要論。』(東洋経済新報社)、『新卒無業。』(共著 東洋経済新報社)などがある。

プログラム概要

大学のカリキュラムの中で、重要な位置を占めている専門ゼミナール。少人数+長期にわたる学習機会は、大学生にとっても重要な学びの機会であることは言を俟ちません。しかし、多くの大学において、ゼミナールの運営は個々の教員に託されていて、ブラックボックス化しています。また、そこでの学習成果が卒業後につながっているかどうかの検証もなされていません。

このプログラムでは、大学教員が中核である実践コミュニティ「ゼミナール研究会」での研究探索活動から見てきた「専門ゼミナール」という学習コミュニティの運営ノウハウ=学生が育つ(卒業後につながる)ゼミの作り方を、受講者の皆さまにお伝えしたいと思います。

受講者の皆さまには、講師の論文「大学教員はどんな行動をしているのか～人が育つゼミに着目して～」(<https://www.works-i.com/research/paper/works-review/works-review-vol13/181109-wr13-10.html>)、ならびにウェブ連載記事「『#大学生の日常』に埋め込まれた学習」(<https://www.works-i.com/project/seminar/campuslife.html>)を精読の上ご参加頂きたいと思います。また、当日は、ショートタイムの個人ワーク、グループワークを織り交ぜたインタラクティブな場を構想しています。皆さま一人ひとりが活きた知見をお持ち帰りいただける時間としたいと考えています。

準備物・事前課題

下記を精読の上ご参加ください。

●論文「大学教員はどんな行動をしているのか～人が育つゼミに着目して～」

<https://www.works-i.com/research/paper/works-review/works-review-vol13/181109-wr13-10.html>

●ウェブ連載記事「『#大学生の日常』に埋め込まれた学習」

<https://www.works-i.com/project/seminar/campuslife.html>

主な受講対象者

専門ゼミナールを担当している教員

自大学の専門ゼミナールの品質を高めたいと考えている教職員

到達目標

1. 大学生が「大学生の日常」を通じて身に着ける(ことが期待される)態度について説明できる。
2. 大学生が育つ(卒業後につながる態度が形成される)学習環境/コミュニティの要件を列挙できる。
3. ゼミナールにおける上記1. 2. の達成につながる施策を説明できる。
4. ゼミナールのあり方についてともに深め合う仲間を見つけることができる。

日時 8月27日(金)9時30分～11時30分